

政務活動に係る活動報告書

会 派 名	市民クラブ
活 動 項 目	先進地視察・研修会開催・研修会参加・その他（ ）
実 施 年 月 日	令和元年11月12日（火）
参 加 者 名	枝松直樹、中川とみ子、川口 豊、神保光一
視 察（ 研 修 ） 地	大分県豊後大野市
応 対 者	農業振興課長 志賀 正 氏 農業振興課担い手支援係長 阿南 博和 氏
目 的	農業の担い手を確保し地域の農業を守るための施策
調査(研修)項目等	新規就農者技術習得研修施設であるインキュベーションファームについて
概 要	<p>豊後大野市は、人口3万5千人の山あいの農業を基幹産業とするまちですが、担い手の高齢化、認定農業者の減少、後継者不足等により耕作放棄地が増加し、農業生産額が減少し、地域活力の低下が進んでいる現状にあります。</p> <p>農業就業人口は、平成22年には4848人だったものが、平成42年には1861人に減少するとの予測されており、農業の存続が危ぶまれている状況です。</p> <p>そんな中、新規就農者の確保・育成方針とし、認定農業者等の後継者確保対策の起爆剤として、平成23年度から「インキュベーションファーム事業」に取り組んできました。</p> <p>研修作物は夏秋ピーマンです。大分県は西日本一の産地で、ブランドとして市場より高評価を受けていることから、ピーマンを中心として確保・育成を計るというものです。</p> <p>研修生は、全国から募集し1週間ほどの短期体験研修を実施し、その結果で研修申請を受け付けます。募集人員は、毎年、3組6名、（55歳未満）です。</p> <p>キャッチコピーは、「ピーマンで、農業所得400万円めざしませんか？」です。</p> <p>研修期間は2年間で、1年目は、土壌、防除、農業簿記等の農業の基礎知識習得と就農実践基礎研修です。</p> <p>2年目は、12～15aの農地での模擬経営という農業実践研修及び就農計画、農用地と住居の確保などの就農準備です。</p>

行政の支援は手厚く、研修中に生活する住居は市が用意し、家賃は、2LDKで月額12,500円。また、金銭的支援として、農業次世代人材投資資金の給付条件を満たせば、研修中2年、就農後5年の計7年間、毎年最高150万円の給付を受けることができます。1人150万円なので、2人1世帯ならば300万円の給付を受けることができます。研修が終わったら豊後大野市で就農を開始するわけですが、家と農地の斡旋も受けることができます。

なぜピーマンなのかというと、既に大分のピーマンはブランド化されており経営の柱として単価が安定していること、生産技術が比較的容易で初期投資が少ないこと、指導体制が整っていることです。

就農施設の現場も視察してきましたが、豊後大野市農林業振興公社が指定管理者となって運営されていました。

第8期研修生までの受け入れをしており16組が既に就農、4組が研修中でした。

所 感

行政が本腰を入れて政策展開すれば成果が出る取組であり、空き家利用、耕作放棄地の利用、移住定住にも貢献しており、本市で取り組んでいる、ワインブドウの生産拡充などにも応用できることから、導入に向け検討すべき取組みと感じてまいりました。